

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 20 年度優秀技術発表会の開催について (第 2 報) ㊦	72
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 22 年秋季～冬季の表紙写真の募集	73
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	73
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	75
○「農業農村工学会学術基金」の募金について	75
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	75
○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	76
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	76
○水土文化研究部会第 6 回研究会の開催について ㊦	77
○ICID 第 5 回アジア地域会議における発表論文の募集について (第 2 報)	78
○第 55 回風に関するシンポジウム開催について	78
農業農村工学会論文集第 259 号内容紹介	80
学会記事	83

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 21 年 2 月 12, 13 日	京都支部	平成 20 年度支部研修会・地方講演会 ㊦		京都市	77 巻 1 号
平成 21 年 2 月 19 日	行事企画委員会	平成 20 年度優秀技術発表会 ㊦		東京都	77 巻 1, 2 号
平成 21 年 2 月 27 日	水土文化研究部会	第 6 回研究会 ㊦		東京都	77 巻 2 号
平成 21 年 8 月 4 ~ 6 日	大会運営委員会	平成 21 年農業農村工学会大会講演会 ㊦		つくば市	76 巻 12 号

第 77 巻第 3 号予定

展望: 土地改良事業の展開過程と経済評価手法における課題: 中嶋康博

小特集: 土地改良事業の外部経済効果の算定手法

- ① 土地改良事業における外部経済効果: 室賀豊史ほか
- ② 外部経済効果算定の具体事例: 富田晋司ほか
- ③ 外部経済効果について: 荘林幹太郎
- ④ 選択実験による外部経済効果の算定に向けて: 合崎英男

技術リポート

北海道支部: 環境に配慮した排水路整備後の魚類および植生の回復状況: 三坂直樹
 東北支部: 野鳥の生息環境に配慮した銀地区水辺環境整備について: 中川義則ほか
 関東支部: 地すべりに近接するバイパス水路トンネルの施工: 樹下紀之
 京都支部: 更新事業における大規模排水機場改修計画: 星 賢輔ほか
 中国四国支部: 波形鋼板ウェブ PC 箱桁橋の施工事例: 錦織 薫ほか
 九州支部: 地すべり対策における電気探査の有効性について: 佐保貴之ほか

小講座: トラベルコスト法: 宮原紀壽

私のビジョン: 農業生産条件の不利な地域における費用対効果分析: 佐々木世界幸

平成20年度全国優秀技術発表会の開催について(第2報)

行事企画委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成20年度全国優秀技術発表会を下記のとおり企画しました。本発表会は昨年度まで中央講習会として実施してきたものを名称変更しました。奮ってご参加下さい。

【開催の趣旨】

平成20年度全国優秀技術発表会は、本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取り組みについて、最新の情報を発表致します。事例発表後に会場と発表者全員で意見交換を行います。詳細は下記のとおりです。

1. 全国優秀技術発表会の日程

- (1) 主 催 農業農村工学会行事企画委員会
- (2) 期 日 平成21年2月19日(木) 10:00~17:10
- (3) 場 所 農業土木会館6階大会議室

2. プログラム

司会 青木 一郎(行事企画委員会委員)

10:00~10:10 開会挨拶

行事企画委員会委員長 元杉 昭男

10:10~10:40 講演 関東支部(1)

「畑総事業が消費者にもたらす便益の定量的評価」

静岡県農地局農地保全室 佐藤 欣久

10:40~11:10 講演 関東支部(2)

「遊水池工事に掛かる発生残土の再利用について」

関東農政局大井川用水農業水利事業所 櫻井康一郎

11:10~11:40 講演 京都支部

「田んぼダムの洪水緩和機能に関する研究」

富山県土地改良事業団体連合会 長尾 直樹

11:40~12:00 意見交換

—昼食(1時間)—

13:00~13:30 講演 北海道支部

「炭素繊維を用いた湖水浄化システムについて」

函館工業高等専門学校 田中 孝

13:30~14:00 講演 中国四国支部(1)

「広域農道における生態系及び景観保全への取り組みとモニタリング結果からみた保全施設の有効性と改善対策」

広島県土地改良事業団体連合会 秋山 浩三

14:00~14:30 講演 中国四国支部(2)

「新たな水資源確保に着目した樹園地整備計画について—畑地帯総合整備事業元怒和地区での事例—」

愛媛県中予地方局産業経済部 渡部 善文

14:30~15:00 講演 東北支部

「東北地方の水田地帯に生息する魚類及びカエルの分布特性について」

東北農政局農村振興課 遠藤 敏之

—休憩(10分)—

15:10~15:40 講演 九州支部(1)

「排水路整備における環境配慮への取り組み事例」

熊本県菊池地域振興局 池辺亘一郎

熊本県球磨地域振興局 高瀬 晃美

15:40~16:10 講演 九州支部(2)

「農地・水・環境保全向上対策の共同活動支援システム」

佐賀県中部農林事務所 土師 清介

16:10~16:40 講演 九州支部(3)

「水田の土地利用が生物多様性に及ぼす環境影響評価手法の検討」

高崎総合コンサルタント 阿南 光政

九州環境管理協会 大平 裕

16:40~17:00 意見交換

17:00~17:10 閉会挨拶 農業農村工学会

3. 定員 100名程度

4. 申込締切 平成21年2月12日(木)

参加を希望される方は、農業農村工学会 HP(<http://www.jsidre.or.jp/>)の各種行事の参加申込書をダウンロードしていただき、下記までE-mailまたはFAXにてお申し込み下さい。

5. 参加費 一般 4,000円

会員割引 2,000円

学生割引 1,000円

*参加費は、お申し込みと同時に事前にお振り込みをお願いいたします。

現金書留：農業農村工学会行事企画委員会宛

郵便振替：00160-8-47993 社団法人農業農村工学会

銀行振込：みずほ銀行 新橋支店 普通預金 1167243

社団法人農業農村工学会 専務理事 岩崎 和己

6. 申込・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

農業農村工学会行事企画委員会 担当：宇津木美緒(Utsugi)

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail：iwasaki@jsidre.or.jp

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「水土の知（農業農村工学会誌）」平成22年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成22年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を集めます。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
 (昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第78巻1～3号および10～12号（平成22年1～3月号および10～12月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEGファインモードまたはTIFFモードに設定）撮影してください。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成21年3月31日（秋季～冬季の写真）

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第78巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成22年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 著作権

採用作品の著作権は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明）を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 77, 78 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
77巻 3号 土地改良事業の外部経済効果の算定手法 (仮)	公募終了	
4号 スtockマネジメントの最前線 (仮)	公募終了	
5号 地域色豊かな自治体の独自事業 (仮)	公募終了	平成21年2月28日
6号 大会関連 (仮)	公募なし	平成21年3月31日
7号 地震関連 (仮)	公募なし	平成21年4月15日
8号 食料自給率向上に向けた農業農村工学技術 (仮)	平成21年3月14日	平成21年4月30日
9号 地域バイオマスの利活用 (仮)	平成21年4月15日	平成21年5月29日
10号 学会創立80周年記念企画 (仮)	公募なし	平成21年6月30日
11号 農業用排水施設等の(大規模)災害に対する備えと、被災時の復旧工法と支援について(仮)	平成21年6月15日	平成21年7月31日
12号 地域資源としての小規模灌漑施設のマネジメント (仮)	平成21年7月15日	平成21年8月31日
78巻 1号 鳥獣害被害の状況と対応策 (仮)	平成21年8月14日	平成21年9月30日
2号 農業水利施設におけるリスクマネジメントの取組み (仮)	平成21年9月15日	平成21年10月30日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集

いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、

予告なく変更することがございます。採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。 送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

77巻8号テーマ「食料自給率の向上に向けた農業農村工学技術」(仮)

近年、わが国における供給熱量ベースの総合食料自給率は40%と横ばいで推移しており、主要先進国の中で最低の水準となっています。

昭和40年度には73%であった同自給率は、高度経済成長期を経て国民の食生活が多様化し、消費品目の構成も大きく変わってきたことなどが主な要因となり、食料自給率の低下傾向が続いてきました。

一方、昨今の輸入食料品等の薬物混入問題など、食の安全に対する国民の意識は変わってきています。また、世界的な人口増や開発途上国の経済発展等により、中長期的には世界の食料事情も逼迫する可能性があると思われています。

このような背景のもと、持続可能な国内生産を維持・増進し、国民に対し良質な食料の安定的な供給を確保するためには、国内の農業生産の増大・食料自給率の向上は重要であると考えられます。

平成17年3月に策定された「食料・農業・農村基本計画」においては、食料自給率の向上に向け、国だけでなく、地方公共団体、農業者・農業団体、食品産業事業者、消費者・消費者団体といった関係者が重点的に取り組むべき課題や、関係者の

役割を明示し、官民を挙げて関係者一体となった計画的な取組みを推進することとされ、平成27年度の食料自給率の目標を供給熱量ベースで50% (当初は45%) と定めています。

同基本計画では、食料、農業および農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策として、「食料の安定供給の確保」、「農業の持続的な発展」、「農村の振興」、「団体の再編整備」が掲げられています。これらの中で、特に「食料の安定供給の確保」、「農業の持続的な発展」の施策においては、優良農地の確保と有効利用、農業生産基盤の整備や農地・農業水利施設等の適切な更新・保全管理など、農業農村工学が果たすべき使命はきわめて大きいといえます。

全国各地には、多様な農業生産の形態とそれに関する課題があり、その課題に対する農業農村工学の技術を活かした取組みを行っていていると考えられることから、本小特集では、その技術情報の共有を図るとともに、食料自給率の向上に向けこれらの取組みをさらに推進していくために、これまでの農業農村工学技術のありようの総括、技術対応における課題の抽出と解決策、将来の展望等を論じた報文を広く募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違っ

たもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特

徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷上り2ページ(4,000字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

私の薦める本は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷上り1ページ以内(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間18CPDポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および継続教育部が担当します。(☎03-5777-2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で1.5CPDポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設

置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害

対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

③ 調査団の派遣期間は、原則 2~3 日とする。

④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額 300 万円)。

⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009 年 3 月末に Vol.7, No.1 が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2009 年 3 月末に Vol.7, No.1 が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに

国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先)

は、台湾になります。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No. 1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

Tel : +8862-2-3366-3467

Fax : +8862-2-2363-5854

(During Jan.2009 to Dec.2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制

• Editor-in-Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

水土文化研究部会第6回研究会の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



(社) 農業農村工学会のビジョン『新たな〈水土の知〉の定礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。

わが国は、水田農業に基礎を置いた水土の上に成り立っており、この水土の持続が生存の基礎になっている。また、それぞれの地域にはそれぞれの水土に応じて、持続性の維持のための固有の作法・技法（広義のテクノロジー）が存在している。

今回の研究会においては、わが国の水土を築いてきた農業水利施設の水利技術に着目し、施設を築造した技術、現在まで維持されている施設が持つ送配水技術の近代的な意味と編集者からみた歴史的土木施設の見方、表現の仕方などに関する研修により、広く認識を深めたい。

1. 日 時 平成 21 年 2 月 27 日（金）13 時～16 時
2. 場 所 虎ノ門パストラル・新館 4 階「プリムローズ」
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-1
☎03-3432-7261（代）

3. プログラム（表題は変更されることがあります）

講演

「建設会社の公益事業として、古技術・未来技術を探る」

（株）大林組「季刊大林」編集長 勝山 聡美

「歴史的農業水利施設を技術的な視点から考える」

農村工学研究所教授 中 達雄

「通潤用水にみる水土文化としての水路システム」

農村工学研究所主任研究官 島 武男

総合討論

4. 参加料 無料
5. 参加申込および連絡先

〒305-8609

茨城県つくば市観音台 2-1-6

（独）農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
農村総合研究部都市農村交流研究チーム（担当 後藤真宏）

☎029-838-7558 FAX 029-838-7609

E-mail : griese@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上、2 月 20 日（金）までに以下の要領にてお申し込み下さい。

氏名 _____ (CPD 番号 _____)

所属機関 _____

所在地 _____

電話番号 _____

FAX 番号 _____

* 部会員以外の方も参加できます。

* (社) 土地改良建設協会研修会との連携行事となっています。

ICID 第5回アジア地域会議における発表論文の募集について（第2報）

2009年12月に、インド・ニューデリーにおいて、国際かんがい排水委員会（ICID）第5回アジア地域会議が開催されます。学会誌1月号でも募集をいたしました、今月号でも再度募集をいたします。投稿をご希望の方は、別記の連絡先までご連絡下さい。なお、ご投稿頂いた論文は、ICID日本国内委員会にて査読した後、ICID本部事務局に提出します。

1. 会議開催概要

開催期間：2009年12月5日（土）～11日（金）

開催場所：インド・ニューデリー

2. 発表者募集の対象会議

ICID 第5回アジア地域会議

3. 募集テーマ

【会議テーマ】

Improvement in Efficiency of Irrigation Projects through Technology Upgradation and Better Operation and Maintenance (技術改良とよりよい操作・維持によるかんがいプロジェクトの効率改善)

- (1) Supply management including pipe distribution system (パイプ配水システムを含む供給管理)
- (2) Organizational management (組織的 management)
- (3) Demand management (需要管理)
- (4) Irrigated area drainage (かんがい地域の排水)
- (5) Command area improvement, Water conservation, Technology Improvement (受益地改良, 水保全, 技術改善)
- (6) Legal aspects and gender issues (法律面とジェンダー問題)

4. 参加表明

2009年2月13日（金）までに、テーマおよび論文の著者名をご連絡下さい。

5. 作成要領

要旨と結論 (Summary and Conclusion) を 450～550 ワー

ドの英文で作成し、2009年2月20日（金）までに E-mail でご提出下さい。連絡先著者の名字をファイル名としたワードデータ（例、総研太郎の場合、souken.doc）とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレスを記載して下さい（連絡先著者を最初に記載）。

日本国内委員会による査読の結果は、2009年2月27日（金）頃までに通知します。また、提出後、要旨と結論が ICID 本部に受理された場合は、2009年3月31日（火）までに通知があります。

詳細は、ICID のウェブサイト (<http://www.wicid.org>) をご確認ください。

6. 論文の作成

Full Paper の作成要領は、詳細な情報があり次第、発表予定者にご連絡します。なお、Full Paper の日本国内委員会への提出期限は 2009年6月30日（火）です。

7. 今後の予定

- ・ICID 本部事務局への要旨と結論の提出
2009年2月27日（金）
- ・要旨と結論の受理の公示
2009年3月31日（火）
- ・ICID 日本国内委員会の Full Paper 締切
2009年6月30日（火）
- ・ICID 本部事務局の Full Paper 締切
2009年7月31日（金）

8. 論文送付先および連絡先

〒151-0001 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門 NN ビル
(財) 日本水土総合研究所

☎03-3502-1576 FAX 03-3502-1329

担当：小林慶一郎 keiichiro-kobayashi@jiid.or.jp

小澤 洋 hiroschi-ozawa@jiid.or.jp

第55回風に関するシンポジウム開催について

表記シンポジウムを下記のとおり開催いたします。今回は日本風工学会風災害調査連絡委員会/同・風災害研究会が中心となり、特別講演、風災害をテーマとするオーガナイズドセッションを企画しました。風に関する一般講演セッションも例年どおり予定しています。多数の講演申込み、ご参加をお願いいたします。

幹事学会 日本風工学会

共催学会 農業農村工学会他 15 学会

1. 日時 2009年3月19日（木） 10:00～18:05

(交流会：18:05～19:30)

2. 場所 日本大学理工学部駿河台校舎1号館6階 CST
ホール

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14

3. 参加費 無料

4. プログラム

10:00～10:05 開会 (日本風工学会)

10:05～11:50 一般講演(1)

11:50～13:00 (昼食)

- 13:05~14:00 特別講演 (予定)
- 14:00~14:05 (休憩)
- 14:05~16:00 オーガナイズドセッション・風災害
- 16:00~16:15 (休憩)
- 16:15~18:00 一般講演(2)
- 18:00~18:05 閉会 (次年度幹事学会)
- 18:05~19:30 交流会 (会費 2,000 円程度, 2 階のカフェテリア)

5. 講演要領

1 講演 15 分程度 (講演関連資料を配布される場合は当日会場にお持ち下さい)

なお、会場には発表用の 프로젝タを用意します。パソコン

ンは各自ご用意下さい。

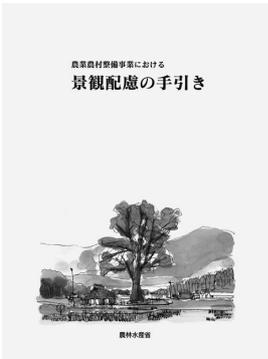
6. 講演申込方法

(1)講演題目, (2)講演者氏名 (連名の場合には講演者に○印), (3)勤務先(所属, 所在地, 電話・FAX, E-mail アドレス), (4)200 字程度の講演要旨, (5)懇親会出欠, を下記まで, 郵送または E-mail にてお申し込み下さい。

7. 申込先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 白土博通 宛
 ☎075-383-3166 FAX 075-383-3168
 E-mail : shirato@brdgeng.gee.kyoto-u.ac.jp

8. 申込締切 2009 年 2 月 15 日

<h2 style="margin: 0;">農業農村整備事業における 景観配慮の手引き</h2>	
	<p>目 次</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1章 手引きの目的 第2章 農村景観の特徴と農業農村整備の展開方向 第3章 農村景観の保全、形成の基本的な考え方 第4章 景観配慮対策の進め方 第5章 調査 第6章 計画 第7章 設計、施工及び維持管理 <p>用語集 引用文献・参考文献 検討の経緯 参考資料</p>
<p>A4判 163ページ 定価 3,200円 (内税・送料学会負担)</p>	<p>申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4 (社)農業農村工学会 ☎ 03-3436-3418 FAX 3435-8494</p>